

自転車競技ロードレース 観戦マナー&ルール

沿道から無料で観戦できる自転車競技ロードレースですが、安全な競技運営の面から観戦ができないエリアもあります。具体的には、車道と歩道の区分がないエリアや高架の上からの観戦などです。地元住民はじめ観戦に訪れる周囲の人に迷惑をかけないために、自転車競技ロードレースならではのマナーやルールをチェックしましょう。世界中が注目している特別な1日を皆で楽しみましょう。

「ついやってしまいがち」接触危険行為

①撮影に夢中になる



カメラで撮影する時には、選手との距離に注意しましょう。特に、長さがある望遠レンズを使用する際は注意してください。一人ひとりが一歩引いて撮影する心がけが、接触事故を防ぐこととなります。

②コーナー内側で観戦



コーナーのある場所では、必ずコーナーのアウト側の位置で観戦することが大原則です。コーナーの内側での観戦は衝突や接触などのリスクが高まります。

③選手と並走する



選手と観客の距離が近いことがロードレースの醍醐味ですが、選手と並走したり手を触れたりする行為は落車などにつながり危険です。

④応援フラッグをコース内で振る



国旗などの応援フラッグや、沿道で配布される応援グッズをコース内で振らないように注意しましょう。沿道で振っているつもりでも、なびいた旗やボールの先端が選手と絡んだりすると大変危険です。

⑤自転車や関係車両に触れる



競技中は選手たちはもちろんのこと、数多くの関係車両が高速で通過します。また、スタート会場では各国が自転車やチームカーを停めて準備を進めますが、勝手に触れる行為はやめましょう。

⑥フェンスから身を乗り出す



選手たちは道幅いっぱいに広がってフェンスギリギリを通過します。フェンスから上半身を乗り出して応援することがないように、必ずフェンスの内側で応援しましょう。

注意事項

⑦熱中症予防対策



水分・塩分補給、日陰を利用した休憩、日傘・帽子・涼しい服装の準備が大切です。体調に異変が生じた場合は体を冷やし、改善しないときは周りの方に助けを求めましょう。

⑧盗難、置き引き注意



多くの人であふれる沿道は、盗難や置き引きのリスクが高まります。貴重品などの荷物は足元へ置かず、身につけるなど盗難されにくい対策を取ることが大切です。観戦時の紛失や盗難は自己責任です。

「やってはいけない!」禁止行為

⑨コース内への立ち入り



競技コースになっている道路に立ち入る行為は大変危険です。まだ選手たちが通過するまで距離があると感じて、時速50km近いスピードで走ってくるためあっという間です。

⑩ドローン等の使用



スタート、ゴール会場周辺を含む競技エリアでのドローン等の飛行ならびに撮影は禁止です。落下事故は競技運営に重大な支障をきたします。また、許可なく飛行させた場合も罰せられることもあります。

⑪無断駐車



コース沿いはもちろん、その周辺にクルマを無断で駐車してはいけません。また、普段は駐車禁止エリアではなくても、競技期間中は禁止エリアになることがあります。

⑫私有地への立ち入り



地元住民の生活圏がコースになるため、誤って私有地内で観戦することがないように気をつけましょう。住宅など私有地へ立ち入りは不法侵入罪に当たります。

⑬コース内に物を投げ入れる



コース内への物の投げ込みは厳禁です。空き瓶など割れ物はもちろんのこと、たとえ小さな物であってもハイスピードで走り抜ける選手たちと接触すれば選手たちの命に関わる重大事に繋がります。

「気持ちよく観戦しよう」マナー違反

⑭ゴミを路上に置く、捨てる



自分で出したゴミはその場に放置せず自分自身できちんと片付けましょう。また、持ち込んだ応援グッズなどは持ち帰りましょう。世界中の人たちの自己中心的な行動はトラブルの原因になるので慎みましょう。

⑮脚立で前を塞ぐ



脚立や台座を使っての観戦は、周囲で観戦している人にとって迷惑になります。世界中から多くの人々が訪れる中で、自己中心的な行動はトラブルの原因になるので慎みましょう。

⑯場所取り



シートや折り畳みイスを置いての場所取り行為は法律違反です。歩行者の通行の妨げになるだけでなく、近隣住民への迷惑にもなります。



次のような場所での観戦はできません。

- ① 車道上での観戦
- ② 車道と歩道の区分がない、或いは歩道の幅が狭く歩行者の往来が確保しにくいエリア
- ③ 急な下り坂のカーブなど観戦者の安全が確保できないエリア
- ④ トンネル内
- ⑤ その他、競技運営上支障をきたすエリア
- ※ フィニッシュ会場内(富士スピードウェイ)